

ブレインストーミングの運営方法

1. 準備

- 最適人数 = 3~6人。超える場合は分ける。後にアイデアを統合。
- ホワイトボードとマーカーを確保。無ければ、模造紙。
- 課題持ち込み者とテーマ調整の作業。会議時間と同じ時間だけ。



2. 運営

- ルールは目安。**判断遅延 (=批判禁止の原義) 1つだけでもOK。**
- 課題を説明。発想時間を決める。会議時間は、収束作業（5分）も含めて設定。テーマやメンバーにもよるが、発想時間は8分/15分/30分ぐらい。なお、50%程度の延長を想定しておく（=戦略的遅延）
- 多様性が乏しい時、観点を変える視点を提示（SCAMPER、6観点リスト、発想トリガー各種）
- 机は極力小さく。無ければ無しでもOK。ボードにむけ半円型に椅子を。サイズを小さく。

3. アイデアの獲得

- 書記は発言の通り書く。書記が言い換えをしない。長い場合は発言者に要約を求めてよい。
- 発言の際に自分で書く方式も良い。渋滞しないようボードを2面にする。
- 終わったら5分、優秀案の可視化ワーク（ハイライト法）。皆で☆を書き、上位群+aが、成果物。

4. やり方の変更

- 発言の苦手なメンバーが多い⇒BW（ブレイン・ライティング）やFBS（フリップボード・ブレスト）を。
- イベント的な場ならSS（5分交代のペアブレスト）を。
- 判断遅延（～批判禁止）が馴染まない場なら「2段階ブレスト」（Whatブレスト⇒Howブレスト）を。